市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
2 Feb 2016 Vol.249

ときめき人

Tokimeki bito

天皇へササニシキを献穀。熱い思いを胸に挑戦は続く

豊里町・加々巻

千葉 利広さん

ちば・としひろ
1961年生まれ　血液型／A型

Profile

1979年、米山農高（現登米総合産業高）卒業後、宮城県農業実践大（現宮城県農業大）畜産学部へ進学し酪農を専攻。大学卒業後、実家に戻り就農し、専業農家の道を歩み始める。就農後、水稲や肉用牛、水田の転作作業を請け負うなど、複合経営に取り組み現在に至る。農事組合法人ＴＭファーマーズ代表を務め、趣味は晩酌。家族は、妻、長男、長女、次女の５人。

「天皇陛下へ献穀するコメに選ばれ本当にうれしい。自分のコメが認められたのだから。同時に、もう品質の悪いものは作れない。もっともっと努力しなければと思っている」と気を引き締める千葉さん。

平成27年度「新嘗祭献穀献納式」は2015年10月23日、皇居の賢所（かしどころ）参集所で開かれ、本県代表として、千葉さんのササニシキが天皇陛下に献納されました。県では、県農林産物品評会で、農林水産大臣賞を受賞した農家に献穀米の作付けを依頼。全国有数の米どころである宮城県。宮城で献穀米を作付けすることは、全国屈指のコメ農家である証です。

ここに至るまでの千葉さんの農業人生は「挑戦」の連続でした。就農後、コメと肉用牛の飼育（肥育、繁殖、一貫経営）、転作田の作業などに取り組んできました。目まぐるしく移り変わる農業情勢。その中で、時々に適した農業経営を模索してきました。そしてここ10年、特に力を入れてきたのが「ササニシキ」の作付け。かつて一世を風靡した、ササニシキの現在の作付面積は決して多くありません。

「登米市を米どころにしたササニシキ。ササの『優しいおいしさ』をなくしたくない」と熱く語る千葉さん。「よいものを消費者に届けたい」就農当時から変わらないこの思いと、お世話になった人たちへの感謝を胸に、千葉さんの挑戦は続いていきます。

編集後記

▼今月は市民の広場などを担当。小学生から90歳を超える大先輩と、幅広い年代の皆さんを取材した。年は違えど、皆さんから聞く話には、新しい気づきや発見がある。「話が面白かった」「またお茶っこ飲みございん」と声を掛けられるよう自分を磨こう。（及川）

▼1月10日に開催された成人式。華やかな振袖やビシッとしたスーツを身にまとい、懐かしい友人たちとの再会に笑顔があふれる新成人の皆さん。式典での来賓や仲間の言葉を真剣に受け止める姿は特に印象的でした。新成人の皆さん、おめでとうございました。（佐藤）

▼日に日に寒さが厳しくなってきます。冬は、風邪やインフルエンザがはやる季節。手洗い、うがいなど予防をきちんとすることが大切です。病気になると、仕事を休んだり、うつしたりと、周りにも迷惑をかけることもあります。皆さんも健康管理に気を付けましょう。（田代）

広報とめ（2月号）
発行日／平成28年1月19日　発行／登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集／総務部市長公室 広報広聴係　印刷／川内印刷株式会社
TEL.0220-22-2090　FAX.0220-22-9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp

モバイルとめ
（携帯電話版ホームページ）
http://www.city.tome.miyagi.jp/m/

登米市メール配信サービス
（防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。）
http://tomecity.mail-dpt.jp/